

JAPAN CUP2025 チアリーディング日本選手権大会 まもなく開幕！

DIVISION 1 大学部門 昨年大会優勝 帝京大学

真の日本一を目指す

JAPAN CUP 日本選手権大会の自由演技競技ディビジョン1 大学部門において、昨年度優勝を果たした帝京大学（東京都）をご紹介します。

帝京大がジャパンカップで初めて入賞（3位）を果たしたのは2010年、初優勝は2020年のこと。これまでジャパンカップの大学部門を数多く制している日本体育大（東京都／初優勝1993年）や梅花女子大（大阪府／初優勝1998年）と比べると、帝京大は比較的新しい勢力といえるが、近年その存在感を急速に高めている。

今大会に帝京大は、自由演技競技ディビジョン1 準決勝進出の他、ディビジョン2へ2チーム、チアリーディング スピリッツ演技競技へ2チーム、スモールグループ演技競技 女子部門へ2チームと総勢7チームが関東地区予選を通過している。



帝京大はこれまで、女子のみ、または男子1名を含む「女子部門」として大会にエントリーしてきたが、今年は男子選手2名を加えた編成で「男女混成部門」としてエントリーしている。ディビジョン1のメンバーに1年生ながら選抜された男子選手は、初出場となるジャパンカップへの意気込みをこう語ってくれた。

「初めてのジャパンカップの舞台なので、緊張すると思うが、練習の段階から本番を意識し、会場ではチームの魅力を存分に発揮できるような演技を精一杯目指して頑張りたい。多くの皆さんに応援していただけたら嬉しいです」



演技の中で特に注目してほしいのは、「6台のパートナースタッツ」。男子選手が加わったことで、スタッツの台数を増やすことは一見容易に思えるが、実際には高度な構成力とチーム全体の総合力が求められる。

通常、チアリーディングでのチーム編成は、演技構成上、16名のうちト

ップ4名、ベース8名、スポッター4名程度の割合であることが多い。6台のスタッツを同時に展開するためには、他の演技パートでベースやミドルトップを担当している選手等がトップに、ベース専門の選手等がスポッターに回るなど、柔軟なポジション変更が必要となる。さらに、1名のベースが1名のトップを支える「シングルベーススタッツ」の導入も不可欠であり、16名全員の技術と連携が要求される。



この構成は、女子チームでは実施が非常に難しく、男女混成チームだからこそ可能となる演技のひとつである。今大会における見どころとして期待が高まる。

ジャパンカップを目前に控えた 1 週間前、帝京大では保護者を迎えての発表会が開催された。ユニフォームを着用し、本番さながらのウォーミングアップを経て披露された演技は、大きなミスもなく、仕上がりの良さがうかがえた。しかしその後もアームモーションやフォーメーション、移動方法等、細部にわたる調整が続けられ、完成度の向上と演技表現の工夫に余念がなかった。



キャプテンは「2 本連続日本一の演技」を目標に掲げ、チームを牽引している。

ジャパンカップでは、準決勝での演技得点の 50%と決勝での演技得点の合計により最終順位が決定される。帝京大は現在ジャパンカップ 3 連覇中ではあるが、過去 2 大会では決勝演技で大きなミスが出ており、今年はその課題克服にも注目が集まる。

4 年生でメイントップを務める選手は、次のように語ってくれた。
「多くの人の意見を取り入れて完成したこの演技を、16 名で魅せ切りたい。プレッシャーもあるし、まだ自信をもてない部分もあるが、残りの時間でもっと詰めていき、16 名全員で力を合わせて頑張ります」

極度の緊張が予想される中、チームは 2 日間連続で演技を成功させるために必要な要素を日々模索しながら、練習に取り組んでいる。



「今年のチームは、技術面よりチームワークで苦戦している」と監督は語る。「それでも、6 月に開催された関東選手権と比較すると成長したと感じている」

「自分たちの目標は何か。なりたいチーム・見せたい演技を実現するためには本気を出して高め合うことが大事だが、少し前までは本気をぶつけることを怖がっていたように感じていた。本気をぶつけあった演技が見ている皆さんに伝わるとよいと思う」

演技の見せ場について尋ねると、「チームの個性や良さを表現できればと思っている。他のチームが取り組んでいないことに挑戦したい」と力強く語った。

チームのスローガンは「熱気・活気・本気」。この 3 つの言葉が宿った演技を期待したい。

中学校・高等学校と同様に、強豪がひしめき合う大学部門。

JAPAN CUP2025 では、大会 3 日目の準決勝、4 日目の決勝と 2 日間にわたる熱き戦いが繰り広げられる。技術だけでなく、心と心がぶつかり合う演技にも注目したい。

本サイトの記事、写真の転載はご遠慮ください。無許可の転載・複製は法律により罰せられます。

Unauthorized reproduction or duplication is punishable by law.